

# 2014年度 事業報告書

おまつり委員会  
委員長 丸山 司

## 1. 事業内容

- (1) 会員拡大（通年）
- (2) 2月雪しか祭り
- (3) 5月担当例会「和」未来に繋ぐ心
- (4) 6月ソウル江南 JC39 周年式典公式訪問
- (5) 8月宵宮事業 長岡 JC 神輿渡御「一心」
- (6) 8月長岡まつり昼事業 Nagaoka 高校生フェスタ 2014～未来に繋げ！Second Stage～

## 2. 所感

本年度おまつり委員会は、委員会メンバー一人ひとりが自ら成長しようとする意欲を持ち続け、己の心に不動の心、人を慕う心を持ち「一心」を掲げ一年間活動を展開して参りました。不安と期待が重なる中、スタートしたおまつり委員会ではありましたが、先ずは会員拡大に取り組み、「一人が一人」を合言葉に活動し、4名の拡大を行うことができました。

2月15日・16日、雪しか祭りに参画し、本年度は新潟大学附属長岡中学校とコラボレーションし、生徒たちが企画・運営したアトラクションを展開させていただきました。生徒たちと設営する中で市民協働の一端に触れつつ、来場していただきました皆様に心も体も温まるおもてなしの心で楽しんでいただき、長岡の冬を過ごしていただくことができたと思います。そして2日間、設営に協力していただきました人財育成委員会をはじめ、多くのメンバーの皆様に感謝致します。

5月19日担当例会「和」未来に繋ぐ心では、日本人の心に息づく和の心を改めて学び知り、新たな気づきを得ることで、自身の心に眠る日本人の魂を呼び覚まし、自国に自信と誇りを持ち崇高な精神文化を未来へ継承できる人財になることを目的とし、開催させていただきました。また、核となることを発信する事は当然の事ながら、メンバーを集中させ心に残る例会の構築を目指しました。日本人の心が込められた国家「君が代」から日本人の精神性へと紐解いたことでメンバーの皆様の心に深く刻むことができたと考えます。私の中で本例会の構築が一番の難関であり、この深く重いテーマである例会をこの委員会メンバーで本当に構築できるか心配しておりましたが、委員会メンバー一人ひとりが真剣に向き合い、力を発揮してくれたおかげで無事に設営することができました。そして講師にお招きした宮本辰彦様のご協力に感謝申し上げます。

6月16日・17日、姉妹JCであるソウル江南 JC39 周年式典に公式訪問させていただきました。翌年には、長岡 JC60 周年、江南 JC40 周年と節目の年を迎えるにあたり、江南 JC と長岡 JC とが今回の訪問で一層の友情を築くことができたと考えます。

8月1日、宵宮事業長岡 JC 神輿渡御「一心」では、なぜ8月1日に神輿渡御をするのかを改めて参加者に伝え、慰霊と復興の想いと感謝を持ち、渡御に参加された皆様と心をつにし、長岡 JC 神輿を担ぎ長岡を盛り上げたいとの想いで実施させていただきました。このすばらしい宵宮事業を未来に繋ぐため、2つの変革に挑戦させていただきました。一つは、一般参加者用の半纏を

新調させていただき、メンバーと一般参加者の皆様とが長岡 JC 神輿を一体感を持って渡御をし、長岡青年会議所の存在感を発信することができたと思います。もう一つは、長岡 JC 神輿の組立場所にアオーレ長岡のナカドマを利用させていただき、来年度以降の利用も確立させていただきました。想定していなかった事として集客がある場で長岡 JC 神輿の組立をしたことで市民の皆様の目に留まり、そこから担ぎ手参加にも繋がりました。ナカドマを利用する事には、安全対策はもちろんのこと時間的制限等の誓約はありますが、長岡青年会議所の活動の一端が市民の皆様に認知される絶好の場だと確信することができました。今年は、2 つの変革にこだわり、委員会メンバーには難儀をかけてしまったと思います。しかし、不器用ながらも責任感と行動力のある委員会メンバーと新入会員に恵まれ最後まで掲げた思いに向かいやり遂げる事ができたことに腹の底から感謝します。そして、半纏新調の際には、特別会員の皆様、メンバーの皆様と多くの企業様から御協賛いただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

8 月 3 日、昨年に続き次世代の長岡を担う若者たちにもっと郷土長岡に興味や関心を持ってほしいと想いから長岡まつり昼事業では、Nagaoka 高校生フェスタ 2014～未来に繋げ！Second Stage～を開催させていただきました。2 年目の今年は、更に高校生たち意見や発想を取り入れ、高校生スタッフ会議や高校生パフォーマーとの会議や打合せの機会を増やし、互いの信頼関係、友情を深めさせていただきました。事前の事業 PR も積極的に高校生たちからも参加していただき、「ダンス」「バンド」以外にもパフォーマンスの種目を「書道」「作品制作の展示」「DJ×ファッションショー」と増やし、幅広い世代の来場者を楽しんでいただくことができました。怒涛の長岡まつり事業のスケジュールではありましたが最高のおまつり委員会メンバーと新入会員がいたからこそ成し遂げられた事業であったと思います。そして、多々協力いただきましたスタッフの皆様とメンバーの皆様に心から感謝申し上げます。

一年間を振り返ると年初から良いことも悪いこともあった年ではありましたが一つひとつが良い思い出で一生忘れられない最高の 2014 年度でありました。JC 最後の年に最高の経験をさせていただきました佐田直人理事長に心から感謝します。最後に不器用でわがままな委員長に最後までついてきてくれたおまつり委員会メンバーに心からありがとう。一心